

2011（平成23）年12月10日

報道関係各位

日本女子大学

第七回「平塚らいてう賞」受賞者決定

<顕彰> ジャン・バーズリー (Jan Bardsley) 氏

(ノースカロライナ大学 チャペルヒル校 アジア研究学部 准教授)

世界人権デーにあたる12月10日（土）、日本女子大学は研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第七回「平塚らいてう賞」の受賞者を発表しましたので、お知らせいたします。

「平塚らいてう賞」は、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女大卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的として2005年に創設したものです。

本年は顕彰への3件の応募があり、厳正な審査の結果、顕彰1件が決定しました。受賞された方を以下にご紹介します。

■ 受賞者

顕彰（1件） ジャン・バーズリー (Jan Bardsley) 氏
(ノースカロライナ大学 チャペルヒル校 アジア研究学部 准教授)

なお、贈賞式は2012年2月18日（土）14時より日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館において行います。

<選考委員>

蟻川 芳子 [日本女子大学学長]
中寫 邦 [平塚らいてうの記録映画を上映する会会長]
出淵 敬子 [WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部副会長]
羽田 澄子 [記録映画作家]
岩田 正美 [日本女子大学 現代女性キャリア研究所所長]

(この件に関するお問い合わせ先)

日本女子大学 広報渉外課内 「平塚らいてう賞」事務局 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 Tel : 03-5981-3176 Fax : 03-5981-3164 E-mail : raiteu@atlas.jwu.ac.jp URL : http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/



第七回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第七回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」に値するとの結論に達しました。ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

<顕彰>

受賞者： ジャン・バーズリー (Jan Bardsley)氏
(ノースカロライナ大学 チャペルヒル校 アジア研究学部 准教授)

研究テーマ： 平塚らいてう、青鞥、フェミニズム、現代文化、日米女性の交流

<受賞理由>

平塚らいてう賞の創設以来、本年は第7回目になるが、第6回に続き英語で書かれた研究、平塚らいてうと「青鞥」についてのジャン・バーズリー氏の研究に「らいてう賞」を差し上げることに選考委員会で衆議一決した。平塚らいてうの作品が日本のみならず広く海外でも読まれ、研究されていることを証明するものであり、よろこばしいことである。

ジャン・バーズリー氏の代表作は *The Bluestockings of Japan, New Woman Essays and Fiction from Seito, 1911-16* (University of Michigan, Center for Japanese Studies, 2007) (『日本の「青鞥」：1911年から1916年までの「青鞥」の新しい女のエッセイとフィクション』)である。本書は1980年以来25年余りにわたる著者のらいてうと「青鞥」同人に関する綿密な調査・研究の成果であり、1989年カリフォルニア大学ロサンゼルス校に提出された博士論文を土台としている。バーズリー氏はらいてうとその周囲にいた「青鞥」の11人の女性たち(野上弥生子や与謝野晶子を含む)のプロフィールを紹介し詳しいコメントをつけたあと、11人すべての女性たちの際立った特徴を示す作品を英訳し載せている。これによって欧米の読者は、日本の初期フェミニズムがどのような歴史的、社会的背景のもとで生まれたかを著者の序文で知り、また実際の作品を通して彼女たちが感じ、悩み、考えていたことを知ることができる。たとえば、らいてうの有名な「元始 女性は太陽であった」というマニフェストを始め、タイトルをあげれば、「女性解放問題の解決」、「新しい女の道」、「人類の一員として男女は平等である」など、1910年代の5年間に「青鞥」同人たちが書いた言葉によってその主張が直接伝わってくるよう工夫され、著者のすぐれた選択眼がはたらいっている。英訳も比較的読みやすい。バーズリー氏の長年にわたるらいてうと「青鞥」の研究から生み出された本書は、らいてう賞にまさにふさわしい業績である。

以上